

令和元年度 第3回SD研修会報告

内 容	研究マネジメント人材養成（産学連携コーディネーター・リサーチアドミニストレーター）
日 時	令和元年9月17日（火）13:30～14:15
場 所	1号館201号室
進 行	福田教育学部長
出席者	Staff 1 1人 Faculty 2人、（別紙参加者名簿）
議 事 内 容	
<p>最初に山下学長から、本学は今から20年程前にやっていたなくてはならなかった「研究マネジメント人材養成」を遅ればせながら開催することになったことを伝えられた。</p> <p>次に福田教育学部長から、「研究マネジメント人材養成」の資料を基に概要の説明を受けた。</p> <p>平成10年10月に文部科学省中教審が「21世紀の大学像と今後の改革方策について（競争的環境の中で個性が輝く大学）」答申した。その中で、大学の事務組織については、教学組織との機能分担の明確化と連携協力の関係の確立が求められる。このため、学長、学部長等の行う大学運営業務についての事務組織による支援体制を整備すること、国際交流や大学入試等の専門業務については一定の専門化された機能を事務組織にゆだねることが適当である。また、大学運営の複雑化、専門化に対応するために、全学的な観点からの適正な職員配置、学部や大学の枠を越えた人事交流、民間企業での研修の機会の充実など、職員の研修や処遇等について改善する必要があると明記されている。この事により大学の法人化がスタートすることになった。</p> <p>引き続き資料の中で、「産学連携コーディネーターやリサーチアドミニストレーターの業務と必要性」「産学官連携施策の経過」「国立大学の統合・法人化」「大学組織の改組」「産学連携部門」「産学官連携コーディネーター支援の経緯」「リサーチアドミニストレーターの育成・確保するシステムの整備」について説明された。</p> <p>最近の動きとして、平成26年2月に中央教育審議会大学分科会が「大学のガバナンス改革の推進について」審議をまとめており、事務職員の高度化による教職協働の実現のため、事務職員が教員と対等な立場での「教職協働」によって大学運営に参画することが重要であり、企画力・コミュニケーション力・語学力の向上、人事評価に応じた処遇、キャリアパスの構築等についてより組織的・計画的に実行していくことが求められると明記されている。</p> <p>引き続き資料の中で、「大学事務組織に関するこれまでの主な御意見」「第44回大学教育部会における主な御意見」「大学職員の採用について」「大学の人事施策の状況」「職員の力量等についての課題」「教職協働の現状」「SDの内容と具体的事例」「事務職員等の業務の変化」「職務別大学の職員数の推移」「大学教員の職務活動時間の配分」「大学職員の将来像に関する意識調査」「SD等のネットワークの事例」「大学の事務職員・事務組織に関する法令上の規定」について説明された。</p> <p>福田教育学部長より、宮崎国際大学の事務職員として、今の現状で今後どのような業務に精通・実践できるかを考えた場合には、毎年私立大学に来る補助金に焦点を当て確実に取りに行くことが必要であるのではないかと話された。</p> <p>山下学長より、今後大学の事務職員は頭の切り替えが必要であり、事務職員が教員をリードし、専門性に長けていることが必要な時代になっている。学長裁量経費は教員だけでなく職員も応募することができるようになっているので、事務職員も専門性を高め研鑽を積んでもらいたいと話された。</p>	